

学術講演

日系仏教徒の死生観と超越

— 戦前戦後の北米開教使の著述を通して —

あまみちひろ

講師 阿満道尋 先生

アラスカ州立大学アンカレッジ校 准教授

明治期から、アメリカに移住した日系人は、差別、死別、戦争など、さまざまな困難に遭遇しながら生き抜いてきました。そこには、日本人の大切にしてきた仏教精神、絆の底力をみることができるでしょう。具体的には、明治、大正、昭和にかけて活躍した京極逸蔵と田名大正の二人の開教使をとりあげ、アメリカにおいて、日系人が苦難の人生を、何を依りどころにして生きたかについて考えます。

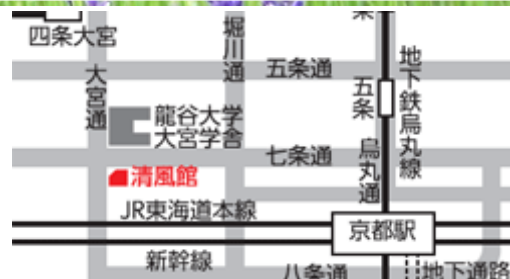
講師紹介

阿満道尋先生は、アメリカのカリフォルニア大学アーバイン校で、日系移民の宗教をテーマにして博士号を取得されて、講師となり、その後も、北米開教区の歴史等を中心に研究をしています。現在は、米国アラスカ大学の准教授として日本語学を教え、「戦前の北米開教の歴史をBCA Archivesからの新資料による考察」に関して、新しい研究を進めておられます。

開催日： 2012年6月27日（水）

開催時間： 13:15 ~ 14:45

会場： 龍谷大学 大宮学舎清風館B103
京都市下京区七条大宮南東角



問い合わせ

龍谷大学 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター (UNIT4)

電話 (075)645-2154 FAX (075)645-2240

<http://buddhism-orc.ryukoku.ac.jp>

